

診療科別主要手術件数（診療科別上位 3 位）

症例数の多い当院で実施された手術件数を各診療科別に集計。項目は K コード、STEM7 コード、症例数、平均年齢で、上位 3 位を掲載しております。

< 集計の条件 >

手術術式の点数表コード（K コード）を主として集計し、軽微な手術（創傷処理や皮膚切開術、輸血関連、加算項目等）は除外とした。また、整形分野においては部位毎の症例数としてカウントし術式名称がある。

< 項目の定義 >

- ☐ K コード：医科点数表にて定められたコード
- ☐ STEM7 コード：外保連で定められたコード
- ☐ 平均年齢：対象手術を受けられた当時の患者様の満年齢の合計数を症例数で除した値

【消化器内科】

K コード	STEM7 コード	術式名称	症例数	平均年齢
K721 1	Q51 10 21	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径 2 センチメートル未満）	177	67.8
K687 1	Q37 16 21	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	15	78.9
K721 2	Q51 10 21	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径 2 センチメートル以上）	12	70.0

考 察

昨年に引き続き、当院の常時内視鏡検査が出来る体制が整備出来ていることが症例数を減少させることなく安定的に実施出来ていると思われま。健診から発見し、外来での治療につなげ、結果として上記の手術症例数へと繋がっていると考えます。今後は、他医療機関からの紹介による

【外科】

K コード	STEM7 コード	術式名称	症例数	平均年齢
K672-2	Q81 12 04	腹腔鏡下胆嚢摘出術	9	62.7
K634	QAJ 35 11	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	5	52.8
K633 5	QAJ 35 00	ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	4	72.0

考 察

昨年に比べ、患者への負担を減らす腹腔鏡下内での手術も増えています。開腹手術が必要な疾患についても安定的に実施出来ております。自治医大学及び東京医科大学との連携が続くため今後も注視していきたいと考えます。

【整形外科】

Kコード	STEM7コード	術式名称	症例数	平均年齢
K046 2	B44 30 04	骨折観血的手術（前腕）	36	76.3
K046 1	B94 30 04	骨折観血的手術（大腿）	31	86.1
K082 1	BA2 34 04	人工関節置換術（膝）	25	77.3

考 察

昨年と比較しても、上下肢の骨折に対する骨折観血的手術が多く、次いで加齢が原因の一つとされる変形性関節症に対する人工関節置換術の症例数が多く見られました。外出する機会が増えた事による屋内外の転倒によって骨折する事案が多かった印象です。また返金年齢が高くなっていることもあり、関節痛の症状を訴え受診する方が多かったことも一因と考えます

【眼科】

Kコード	STEM7コード	術式名称	症例数	平均年齢
K282 1 □	D4E 12 02	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他のもの）	67	76.5
K282-2	D4E 16 12	後発白内障手術	9	78.6
K276 2	D4G 18 42	網膜光凝固術（その他特殊なもの（一連につき））	2	75.5

考 察

昨年に引き続き加齢性白内障に伴う水晶体再建術が、症例数が最も多い結果となりました。地域性もありますが、手術を受けられた方の平均年齢は他科同様高く、外来を受診する方も比較的高齢者の方が多い印象です。

【耳鼻咽喉科】

Kコード	STEM7コード	術式名称	症例数	平均年齢
K331	D64 18 20	鼻腔粘膜焼灼術	43	63.3
K286 1	D54 17 22	外耳道異物除去術（単純なもの）	13	67.0
K300	D56 16 22	鼓膜切開術	8	72.1

考 察

昨年に引き続き、滲出性中耳炎や鼻出血に関する手術が多い結果となりました。耳鼻咽喉科のニーズは高く、子供から高齢者まで幅広く受診出来る点が結果として表れていると考えます。入院を伴う症例もありますが、その場で治療効果の高い手術が症例数に反映されているものと考えられます。